

IRスケジュール

IR Schedule

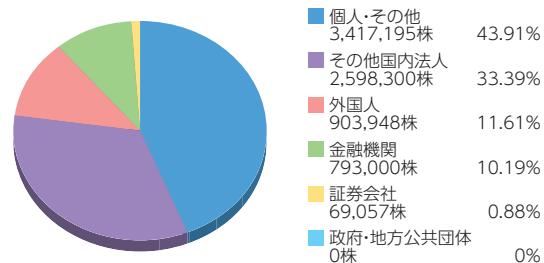
平成25年1月上旬	平成25年5月期 第2四半期決算説明会 (アナリスト・機関投資家向け)
1月下旬	会社説明会(個人投資家向け)
3月下旬	平成25年5月期 第3四半期決算発表
5月20日	平成25年5月期 決算期末日
6月下旬	平成25年5月期 決算発表
7月上旬	平成25年5月期 決算説明会 (アナリスト・機関投資家向け)
8月初旬	定時株主総会招集ご通知・株主優待のご案内発送
8月中旬	第29回定時株主総会開催
8月中旬	定時株主総会決議ご通知・年次報告書発送

株式の状況(平成24年11月20日現在)

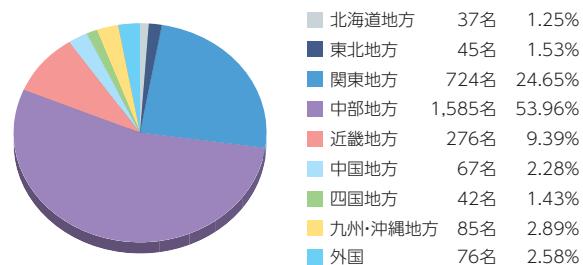
Stock Information

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	7,781,500株
株主数	2,937名

所有者別株式分布状況



地域別株主分布状況



株主メモ

Shareholders Information

事業年度	毎年5月21日から翌年5月20日まで
定時株主総会	毎年8月20日までに開催
定時株主総会の基準日	毎年5月20日
期末配当の基準日	毎年5月20日
中間配当の基準日	毎年11月20日
公告方法	電子公告< http://www.kusuri-aoki.co.jp > ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
お問合せ先	電話0120-782-031(フリーダイヤル)

よくあるお問合せ

Shareholders FAQ

住所変更のお申出先について…

株主様のお取引の証券会社等にお申出ください。
なお、特別口座の株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金について…

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株主優待制度のご案内

Shareholders Special Benefit Plan

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするため、年1回、株主優待制度を実施しております。

- 対象株主様 毎年5月20日現在の株主名簿に記録された1単元(100株)以上ご所有の株主様
- お申込み方法 「株主優待のご案内」に添付された返信ハガキ(毎年8月初旬にお届けする「定時株主総会招集ご通知」に同封)にて、8月31日消印有効までにお申込みください。
- 贈呈時期 毎年9月末頃～10月のお届け予定
- 優待内容 **①または②のいずれかおひとつ**
① 株主優待カード
当社店舗でのお買い物時にご利用できる5%割引カード
② 地方名産品
ご所有株式数に応じた2,000円～5,000円相当の品



BUSINESS REPORT

第29期 中間報告書

平成24年5月21日～平成24年11月20日



株式会社クスリのアオキ

証券コード：3398





代表取締役社長 青木 保外志
社長執行役員 Aoki Yasutoshi

Q 同業各社との出店競争が激化していますが、今後マーケットはどのように変化し、どのような差別化を行っていくかをお聞かせください。

お客様の求めるサービス・商品は絶えず変化しており、現在のドラッグストア業態のままではお客様の要望を満たすことはできないと考えております。デフレや少子高齢化など、今後ますます生活の環境は厳しくなると予想され、お客様に近づく努力を絶えず続けなくてはなりません。

今後当社が成長するためには、もっと便利に利用できる「コンビニエンス性」をプラスしたドラッグストアの形を追求することが必要であると考えております。「健康と美と衛生を通じて社会に貢献する」という理念を全社員が共有し、お客様の要望を適切且つ迅速に当社の店舗フォーマットの中で実現してまいりたいと思います。

Q 平成24年4月に初めて群馬県へ進出されましたが、基本となる出店戦略について教えてください。

当社が基本としている出店戦略は、お客様の身近な場所に集中して出店するドミナント戦略です。平成17年に新潟県へ進出、平成24年5月期には新潟県の店舗数は24店舗に達し、新潟県での売上高は100億円を超えるまでに成長いたしました。お客様の近くへ出店することで、その便利性に対してご支持をいただいた結果だと考えております。この成功事例を今後、長野県・群馬県においても展開し、ドミナントの強化に努めます。

また、新潟県や北陸3県におきましても現状に満足することなく、さらなるドミナントの深耕やスクラップ&ビルドを行い、営業力の強化を図ってまいります。

Q 今後の調剤事業の展開についてお聞かせください。

調剤事業に関しては、基本的に全店舗へ調剤薬局を併設することを目指しております。

少子高齢化や医療費の問題がますます顕在化し、医療においても「治療」から「予防」へとシフトしてきたことでセルフメディケーションが声高に叫ばれるなど社会の気運が変わってきており、ドラッグストア併設調剤薬局やそこで勤務する薬剤師への期待は年々高まっております。

当社店舗は医療提供施設である調剤薬局を核として、地域の健康に関する問題を解決する役割を担う、「地域の健康ステーション」を目指してまいります。



Q 最後に株主の皆様へメッセージをお願いします。

企業として継続的な発展をしていくことこそが、当社が株主の皆様に応えるための最大の責任と考えております。当社の理念を共有いただき、ご支援をいただいていることに感謝申し上げますとともに、その責任を痛感しております。

今後とも継続的な成長を続ける企業として皆様から変わらぬ応援をいただきたいと思っております。

会社概要 (平成24年11月20日現在)

Corporate Profile

会社名	株式会社クスリのアオキ
所在地	(本部) 石川県白山市松本町2512番地
電話	(代表) 076-274-1111
設立	昭和60年1月26日
資本金	1,308百万円
従業員	989名
平均臨時雇用者数	2,093名
店舗数	187店舗
事業内容	医薬品・化粧品・日用雑貨などの近隣型小売業（ドラッグストア）、調剤薬局

役員 の 状 況

Board of Directors

取締役会長	青木桂生
代表取締役社長	青木保外志
代表取締役社長執行役員	青木宏憲
代表取締役専務執行役員	垣内伸彦
取締役常務執行役員	三沢康司
取締役執行役員	澤野和彦
社外取締役	鶴羽樹
社外取締役	井元哲夫
常勤監査役	田中誠一
社外監査役	隅谷護
社外監査役	笹野守

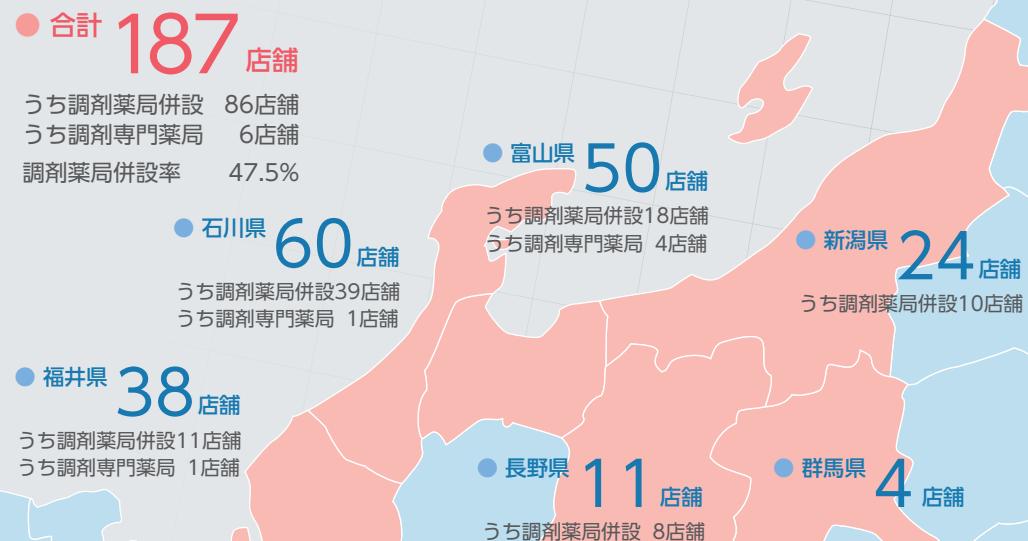
沿 革

Corporate History

- 昭和60年 株式会社クスリのアオキ設立
- 昭和61年 1号店を石川県金沢市に出店
- 平成9年 富山県1号店を砺波市に出店
- 平成9年 福井県1号店を福井市に出店
- 平成9年 株式会社ツルハと業務・資本提携
- 平成13年 イオンウエルシアグループ（現ハピコムグループ）に加入
- 平成15年 イオン株式会社と業務・資本提携
- 平成17年 新潟県1号店を上越市に出店
- 平成18年 東京証券取引所市場第二部に上場
- 平成19年 100店舗を達成
- 平成20年 長野県1号店を長野市に出店
- 平成23年 東京証券取引所市場第一部に上場
- 平成24年 群馬県1号店を伊勢崎市に出店
- 平成24年 株式会社A2ロジを設立

店舗数の状況 (平成24年11月20日現在)

Number of Stores by Region



ドラッグストア事業



食料品を拡充した全面改装や営業時間の延長などにより、お客様の生活ニーズに沿った店舗づくりに挑戦しています。

調剤薬局事業



お客様に気持ちよくご利用いただくための接客強化に取り組みながら、全店舗への薬局併設を目指します。



新規エリア 群馬出店レポート

当社は平成24年4月に、群馬県伊勢崎市に群馬県第1号店を出店して以来、7月に江田店（前橋市）、11月に南千木店（伊勢崎市）、藤阿久店（太田市）をオープンし、11月20日現在では群馬県でドラッグストア4店舗体制で営業しております。

また、12月には、南千木店および藤阿久店で調剤薬局を併設オープンしており、群馬県における面分業の担い手として、地域の皆様から信頼されるかかりつけ薬局を目指しております。

群馬県内においても「近くて便利」なクスリのアオキを実現するため、さらなる出店によるドミナント化を進



めるとともに「今より少しでもお客様に喜んでいただける店舗づくり」を常に念頭に置きながら、地域の皆様に支持いただける店舗づくりを推進してまいります。

平成24年7月オープン クスリのアオキ 江田店

群馬県店舗紹介
(スタッフの声から)



昔からの住宅地近くにオープンした江田店。徒歩や自転車で来店されるお客様も多く、客層を意識した店づくりを心掛けています。“気持ちよく買い物ができる店”を目指し、お客様とのコミュニケーションを大切にしています。

住所 群馬県前橋市江田町602-1
電話 027-210-7400
営業時間 9:00~22:00

平成24年11月オープン クスリのアオキ 藤阿久店

群馬県店舗紹介
(スタッフの声から)

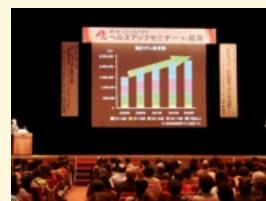


当社の営業基盤である北陸と比べると競争が厳しいですが、これまで当社で培ってきた親切丁寧な接客対応で、1人でも多くのアオキファンを増やしていきたいです。

住所 群馬県太田市藤阿久町746-4
電話 0276-20-6100
営業時間 9:00~22:00

ヘルスアップセミナー開催（富山・福井）

富山大学、福井大学の専門医による講演会、健康測定・相談会、健康関連商品のご紹介など今年も大盛況となりました。今回、福井会場では、もっと地域に根差したイベントになるようにとの思いから、健康に関する啓発活動に取り組んでいる地域団体と連携し、フラダンス愛好会様のステージ披露など新しいエッセンスが加わったヘルスアップセミナーとなりました。



専門医による講演会
専門医による講演会では、会場から笑いが起こるなど大盛会となりました。



健康測定・相談会
健康測定結果を元に、薬剤師と栄養士が皆さんの疑問・相談にお答えしました。



健康関連商品紹介コーナー
健康関連商品の試飲試食は、列ができるほどの大人気。



メイク体験
ビューティコーナーは、幅広い年代の女性に大好評で熱気にあふれていました。

平成24年

10月

11月

義援金募金寄付のご報告

東日本大震災直後からこれまでに当社各店舗にお寄せいただいた義援金募金総額は12,866,361円となり、被災県等の受付窓口へ寄付させていただきました。皆様からのご協力に感謝するとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

コンプライアンス強化の取り組み

コンプライアンスとは、お客様、患者様から信頼を獲得し、会社の継続的成長の礎となる基本的な考えです。当社は、長い年月をかけて真摯にお客様、患者様へ向き合うことで地域の皆様からの信頼を受け、成長を続けてまいりました。しかし、昨今、数多くの有名企業が不祥事発覚により社会的責任を迫られているように、長年積み重ねてきた信頼さえも、失う時は一瞬です。当社は、平成24年5月21日より「企業倫理・コンプライアンス」を担当職務とする取締役を新たに置き、全社的な内部統制機能の強化に本格的に取り組み始めました。コンプライアンスを実践できる体制・仕組みを構築するだけでなく、従業員の教育や訓練も並行して行い、一人ひとりの理解の促進に努めてまいります。



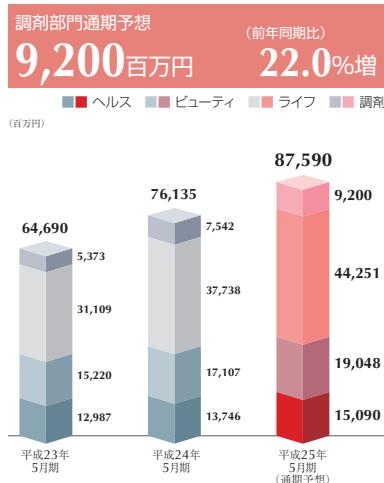
Business Review

▶ 財務ハイライト

■ 売上高（県別）



■ 売上高（商品部門別）



■ 既存店月次売上高前年同期比伸率



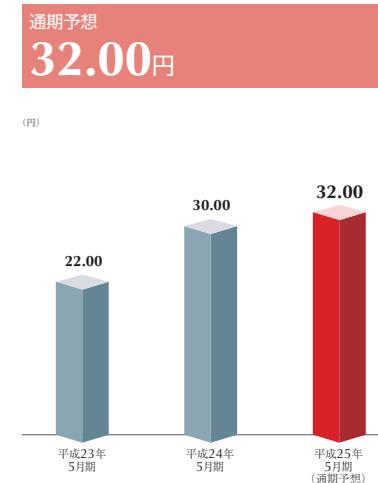
■ 経常利益／当期純利益



■ 純資産額／総資産額／自己資本比率



■ 1株当たり配当額



▶ 当第2四半期の営業の概況

ドラッグストア8店舗の新規出店（富山県3、福井県1、長野県1、群馬県3）、調剤専門薬局1薬局（富山県1）、ドラッグストア併設調剤薬局8薬局（石川県1、富山県3、福井県1、新潟県2、長野県1）の新規開局の結果、総店舗数はドラッグストア181店舗（内、調剤薬局併設86店舗）、調剤専門薬局6薬局の合計187店舗となりました。

ドラッグストア業界は激しい出店競争や価格競争に加え、他業種の医薬品販売参入により厳しい環境が続いておりますが、当社ドラッグストア部門においては、よりお客様に便利に利用していただくために、食料品の品揃えを拡充した店舗全面改装を17店舗で実施するなど既存店の活性化に取り組んだ結果、売上高が大きく増加いたしました。

調剤事業については、医薬分業が急速に進む北陸地区の面分業を担うインフラとなるべく、ドラッグストア併設調剤薬局の新規開局を進め、お客様に気持ちよくご利用いただくための接遇の強化などに取り組んだ結果、処方箋枚数、売上高ともに大きく伸長しております。

以上の結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高447億84百万円（前年同期比20.6%増）、営業利益22億38百万円（前年同期比27.4%増）、経常利益23億1百万円（前年同期比26.8%増）、四半期純利益14億75百万円（前年同期比41.7%増）となり、増収増益となりました。

▶ 通期の見通し

第3、4四半期における店舗の新設は、ドラッグストア12店舗、ドラッグストア併設調剤薬局6薬局を計画しております。前期末に初進出いたしました群馬県におけるドミナント強化に努めるとともに、当社の営業基盤である北陸エリアにおいても、既存店の活性化に注力するとともに、「コンビニエンス性」を高めたドラッグストアの形を追求してまいります。

以上により、第29期末時点での店舗数はドラッグストア193店舗、調剤専門薬局6店舗の合計199店舗の計画であり、通期の業績予想につきましては、売上高875億90百万円（前期比15.0%増）、営業利益41億9百万円（前期比18.1%増）、経常利益42億1百万円（前期比17.9%増）、当期純利益25億64百万円（前期比25.3%増）を見込んでおります。

※当社は第29期から連結財務諸表を作成しておりません。財務ハイライトの数値はすべて個別財務諸表の数値となっております。



Financial Data

四半期貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科目	当第2四半期末 (平成24年11月20日現在)	前期末 (平成24年5月20日現在)
資産の部		
①流動資産	18,197,338	15,929,930
現金及び預金	4,623,089	4,628,602
売掛金	1,563,613	816,530
商品	9,840,909	8,558,740
その他	2,169,726	1,926,057
①固定資産	19,146,883	17,805,205
有形固定資産	15,742,585	14,587,592
建物及び構築物	12,891,209	12,190,938
土地	1,047,937	1,047,937
その他	1,803,437	1,348,716
無形固定資産	692,765	682,263
投資その他の資産	2,711,532	2,535,349
敷金及び保証金	1,861,793	1,751,895
その他	849,739	783,454
資産合計	37,344,222	33,735,136

POINT ①

売掛金の増加7億47百万円、たな卸資産の増加12億82百万円、新規出店等による建物等の有形固定資産の増加11億54百万円等によるものであります。

科目	当第2四半期末 (平成24年11月20日現在)	前期末 (平成24年5月20日現在)
負債の部		
②流動負債	18,275,827	16,422,628
買掛金	12,310,034	10,770,166
短期借入金（※）	1,463,663	1,351,073
その他	4,502,130	4,301,389
②固定負債	6,727,319	6,318,981
長期借入金	4,437,680	4,279,913
その他	2,289,639	2,039,068
負債合計	25,003,147	22,741,610
純資産の部		
株主資本	12,329,933	10,987,799
資本金	1,308,692	1,301,678
資本剰余金	1,511,476	1,504,462
利益剰余金	9,509,764	8,181,658
評価・換算差額等	571	△ 3,739
新株予約権	10,570	9,467
純資産合計	12,341,075	10,993,526
負債・純資産合計	37,344,222	33,735,136

※1年以内返済長期借入金

POINT ②

主な増加要因は、買掛金の増加15億39百万円、新規店舗の設備投資を用途とする長期借入金（1年内返済予定含む）の増加2億70百万円等によるものであり、主な減少要因は、賞与引当金の減少51百万円、未払法人税等の減少23百万円等によるものであります。

四半期損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	当第2四半期(累計) (平成24年5月21日から 平成24年11月20日まで)	前第2四半期(累計) (平成23年5月21日から 平成23年11月20日まで)
売上高	44,784,880	37,135,398
売上原価	32,963,232	27,248,604
売上総利益	11,821,647	9,886,793
販売費及び一般管理費	9,583,142	8,129,295
営業利益	2,238,504	1,757,497
営業外収益	124,253	132,563
営業外費用	61,566	75,736
経常利益	2,301,191	1,814,325
① 特別利益	88,964	2,059
特別損失	1,920	1,272
税引前四半期純利益	2,388,235	1,815,112
法人税等	912,480	773,383
四半期純利益	1,475,755	1,041,728

POINT ①

平成24年5月20日に解散いたしました当社子会社、株式会社青木二階堂の清算益です。

四半期キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	当第2四半期(累計) (平成24年5月21日から 平成24年11月20日まで)	前第2四半期(累計) (平成23年5月21日から 平成23年11月20日まで)
①営業活動による キャッシュ・フロー	1,484,333	—
②投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,064,105	—
③財務活動による キャッシュ・フロー	△ 30,740	—
現金及び現金同等物の 増加・減少(△)額	△ 610,512	—
現金及び現金同等物の 期首残高	4,023,602	—
現金及び現金同等物の 四半期末残高	3,413,089	—

POINT ①

税引前四半期純利益23億88百万円に加え、主な増加要因に、非資金費用である減価償却費の計上6億34百万円、買掛金の増加15億39百万円があります。

POINT ②

主に、新規出店に伴う有形固定資産の取得で13億58百万円を支出しました。

POINT ③

主に新設店舗の建築資金を用途に、長期借入による収入9億46百万円、長期借入金の返済による支出6億75百万円によるものです。